

研究資金の配分問題について

2005.8.11.

総合科学技術会議 有識者議員

科学技術基本計画の下で科学技術投資の拡充

「資金配分の仕組みに問題があり、一部研究費にだぶつきがあるのではないか」との指摘



総合科学技術会議として実態を調査し、率直な議論の上、正確な情報を発信することが必要。

国民の信頼を得る科学技術システム改革。

第2期科学技術基本計画における これまでの取組

- 4分野への重点化（ライフ、IT、環境、ナノ・材料）
- SABC評価等による重複排除と優先順位付け
- 競争的研究資金の拡充と制度改革の実施
（研究資金の配分に係るデータベース整備等）

科学技術関係予算：

第1期（H8～H12）： 17.6兆円

第2期（H13～H17）： 20.65兆円（H17地方分は含まず）

重点4分野の予算割合：

37.9%（H13） 45.5%（H17）

競争的研究資金：

3,265億円（H13） 4,672億円（H17） 伸び率： +43.1%

・ SABC評価等により研究テーマの不必要な重複は排除できたが、研究者レベルでの研究費の獲得の集中状況は不明なため、今回、新たに調査。

・ 対象とする研究者

大学、公的研究機関の研究者・研究者グループ（企業等は除く）

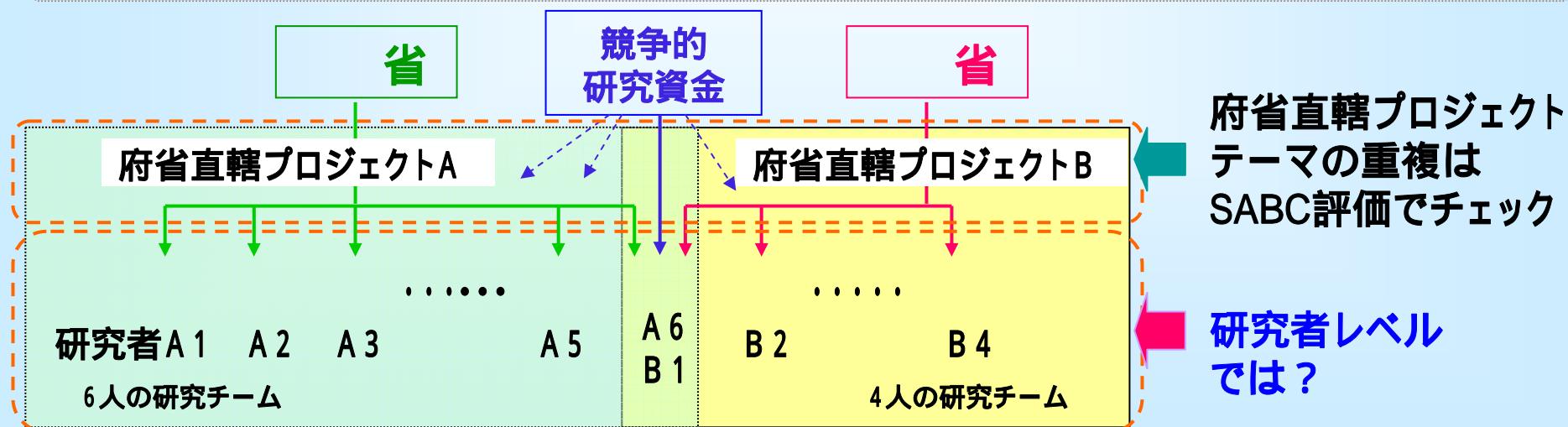
・ 対象とする研究資金

競争的研究資金

政府研究開発データベースによる分析

府省直轄プロジェクト予算

関係府省からの聞き取りによるケーススタディ



競争的研究資金についての調査結果

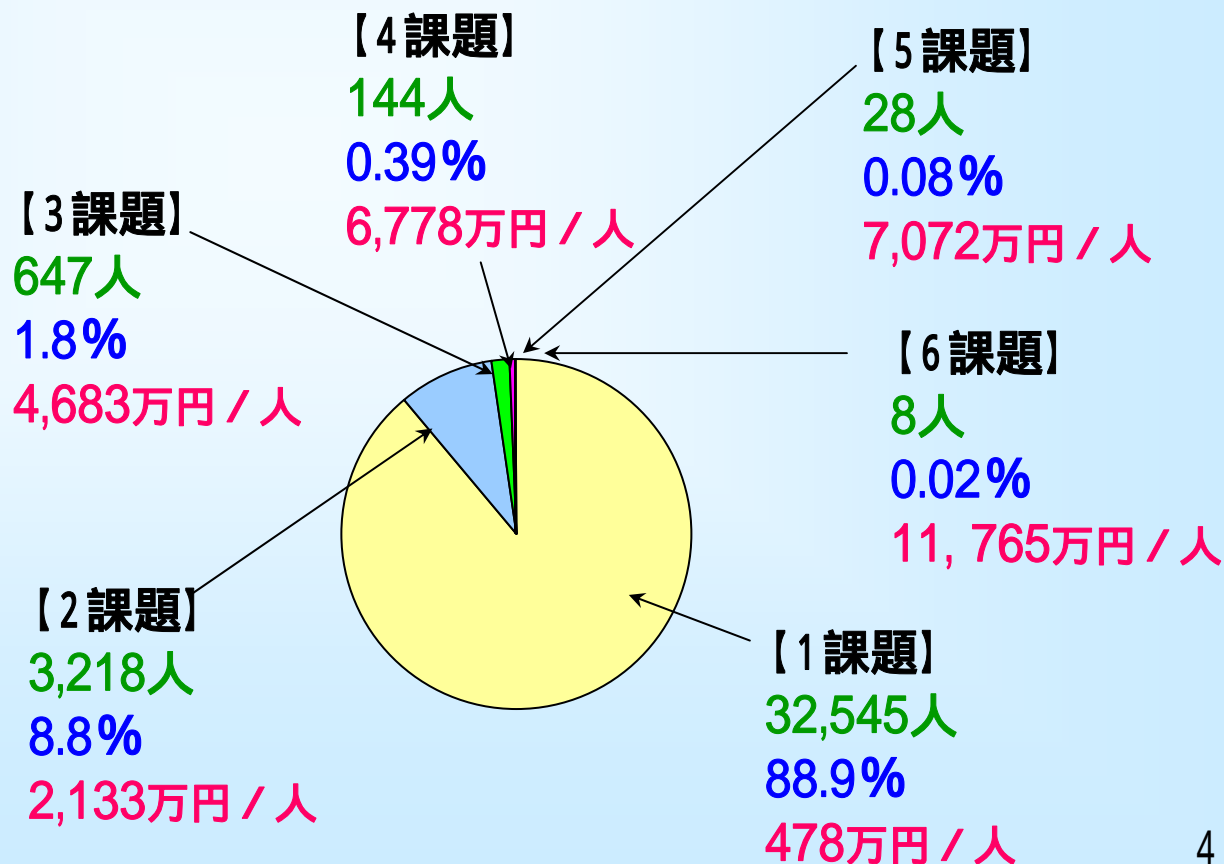
研究者・研究者グループによる獲得の実態を見ると、

- ・ **全体の89%**の研究者は**1課題のみ**獲得。研究代表者1人当たりの平均獲得額は**478万円**。
- ・ **全体の0.1%**は**5課題以上**獲得し、平均額は**約8100万円**。

複数課題獲得状況

- ・ **獲得数別人数(人)**
- ・ **人数比率(%)**
- ・ **代表者一人当たりの平均獲得金額(万円/人)**

注1: 政府研究開発データベース (H17年2月1日時点)に基づく H15年度競争的研究資金の配分実績に関する集計。データ入力状況変化等により変更があり得る。
注2: 分野間にまたがる重複および同一分野における同姓同名の識別はしない。
注3: 組織が研究代表者になっている課題等(463件、計207億円)は除く。



研究費の適正配分に向け検討すべき課題

競争的研究資金 / 府省直轄プロジェクトにわたる獲得者側における研究費の**過度の集中**を防ぐための仕組み

複数課題の獲得に関する**省庁間での情報共有**を可能とする仕組み

優秀な研究者に資金が集まることを否定すべきではないが、その研究者が複数の役割を的確に果たしていることを確認するための公正かつ透明性の高い**研究マネジメントのあり方**

研究分野・領域によって、必要な**研究資金の規模、最適な実施体制**など様々である点を踏まえる必要性